



二〇〇八年ノーベル賞 日本人四人同時受賞！

客員 相談役 藤井 基之

今年の十月、大変面白いニュースが飛び込んできました。まず十月六日、日本人物理学者 南部陽一郎氏、小林誠氏、益川敏英氏の三氏がノーベル物理学賞を受賞したというニュースです。翌日の七日、今度は下村脩^{あきむら}博士がノーベル化学賞を受賞したというニュース。一度に四人ものノーベル賞受賞者が誕生し、日本中が沸きたちました。

さて、四人の受賞者のうち私が最も感動したのは、下村博士のノーベル化学賞の受賞でした。下村博士は米国ボストン大学の名誉教授ですが、長崎医科大学付属薬学専門部（現 長崎大学薬学部）の出身です。実は私も薬学が専門です。これまでに薬学者の文化勲章受賞者はいますが、ノーベル賞は下村博士が初めてです。

下村博士は、長崎大学卒業後、名古屋大学へ。そして四十年前、米国プリンストン大学に留学し、そのまま同大学の研究員になられたそうです。そのプリンストン大学の研究員時代に海中で緑色に光る「オワンクラゲ」というクラゲ（料理でも使うのでしょうか？）の発光のメカニズムの解明に取り組み、十七年後、ついにオワンク

ラゲの発光物質 GFP（緑色蛍光タンパク質）を発見されたそうです。

イチロー選手が所属している米大リーグ・マリナーズの本拠地シアトルから二四〇kmほどのところにあるサンファン島という島に、フライデーハーバーという古くからの漁村があり、その海に毎年夏になるとオワンクラゲが大量に漂って光を放っていたことから、研究のために家族総出でフライデーハーバーを訪れ、クラゲを捕まえたそうです。ひと夏で五万匹以上も採集し、その総数は十七年間で八五万匹にもなるというのですから大変なものですね。真偽のほどは定かではありませんが、その近隣の海からは一時クラゲがいなくなってしまったといわれたそうです。

そうした地道な研究活動が実って GFP を発見。その後、一九九〇年代になると他の学者によって病気の原因となるタンパク質など、遺伝子に GFP を融合させた蛍光マーカーが作られ、がん発生のメカニズムや診断などの医療分野に大きく貢献することとなりました。下村博士は現役引退後の現在も、自宅でやはり生物の発光体（光

るキノコ)の研究に取り組んでいるそうです。

ところで、今回の三人のノーベル物理学受賞者のうち、南部陽一郎博士は一九七〇年に米国籍を取った日系米国人だそうです。南部博士は「論文が毎日、新聞のように手に入る」という研究環境にひかれ、米国籍を取ったのだそうです。今回の南部博士や下村博士もそうですが、一九七三年に受賞された江崎玲於奈博士、一九八七年に受賞された利根川進博士など、日本の研究環境に飽き足らず、海外に研究活動の場を求めて大きな成果をあげられた日本人学者は少なくありません。これは実のところ日本における科学研究環境の貧しさの証左ではないかといわれています。参議院議員時代、私は予算委員会の代表質問で、当時の小泉総理大臣に「政府は科学技術基本計画において今後五十年間で三十名のノーベル賞受賞

者を目指す、と方針を打ち出しています。科学技術研究の推進策を強化すべきでは」と質問しました。そして小泉総理より「ノーベル賞受賞はオリンピックの金メダルと同じように、やればできるといふ国民の精神的活力を高めたり意欲を高めるといふ意味でも重要だ。科学技術の振興は経済発展、日本全体の力を高めるためにも不可欠だ」という回答をいただきました。

わが国の科学技術研究費をみると、欧米に比べて国家予算の占める比率が低く、民間依存率が高くなっています。そこで私は、国会質問で科学技術研究創造立国を掲げる政府としてもっと科学研究に対する国家予算を増やし、支援を強めるよう求めました。この機会に政府が改めて科学技術振興政策の、より一層の強化を図ってほしいものです。

ふじい もとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和 22 年 3 月 16 日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1 回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ
<http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱は A(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会造りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和 37 年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和 40 年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和 44 年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和 44 年 厚生省入省
平成 9 年 厚生省退官
平成 9 年 財団法人 ヒューマンサイエンス振興財団専務理事
平成 12 年 日本薬剤師連盟副会長
社団法人 日本薬剤師会常務理事
平成 13 年 参議院議員
平成 16 年 厚生労働大臣政務官
(平成 16 年 9 月~平成 17 年 11 月)
平成 19 年 日本薬剤師連盟顧問
- その他
昭和大学薬学部 客員教授
共立薬科大学 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師
京都薬科大学 客員教授